

大講堂

東側には鐘楼を、西側には経蔵を従えるように建てられているのが、平屋造りの大講堂である。ここは、寺の僧侶たちが学習をするための場所として使われていた。またかつてはここは僧侶の食堂としても使われていた。大講堂は925年に落雷によって焼失し、990年に薬師如来を本尊とする御堂として再建された。ここに納められた仏像は、高さ約2.5メートルの薬師如来像と、その両脇に坐す日光菩薩と月光菩薩である。これらの像はこの大講堂の再建に合わせて造頭されたものである。法要の時に講師と読師の僧が坐る高座も一対設けられている。